

平成30年度学校評価について

- ・学校評価については、教職員に対するアンケート等による自己評価や生徒や保護者を対象に実施する外部アンケート、学校評議員等による学校関係者評価を実施している。
- ・今年度の学校評価アンケートも昨年度同様、常勤の教職員全員と全学年全クラスの生徒・保護者について実施した。
- ・生徒・保護者に関して学年別に集計も行い、各学年における成果と課題の分析ならびに全学年の分析から、昨年度との比較を行い成果と課題について検討した。
- ・中間評価（10月）は、自己評価のみを学校および教育委員会のHPで公表。年度末の総合評価については、自己評価および学校関係者評価を公表することとなっている。
- ・今年度より、学校評価の基準が下記の様に変更になった。

平成 29 年度以前	平成 30 年度より
■ 肯定的な回答（4 と 3 の合計%が）	■ 肯定的な回答（4 と 3 の合計%が）
75%以上 A(実施でている)	80%以上 A(実施でている)
50%以上 B(ほぼ実施できてる)	60%以上 B(ほぼ実施できてる)
25%以上 C(あまり実施できていない)	40%以上 C(あまり実施できていない)
25%未満 D(実施できていない)	40%未満 D(実施できていない)

平成 30 年学校評価アンケートの結果から

（1）教職員による自己評価に見られる特徴

昨年度、1項目につき B 評価があったが、今年度は2項目あった。さらにA評価ながら肯定的評価の割合が比較的低い項目、あるいは昨年度からポイントが下がった項目もあり、各々の職員が、新たな学校の体制づくりに向かう中で深く課題を認識しているといえる。

・ B 評価であった項目

⑨環境教育「ごみの分別・計量、節電等省エネに努め、環境問題への意識の向上に努めている。」

平成 29 年度 A 8 2 % → 平成 30 年度 B 7 8 % （5 % 減）

⑩事務管理「施設・設備面で安全管理を充分に行っている」

平成 29 年度 B 5 8 % → 平成 30 年度 B 6 9 % （1 1 % 増）

校舎の老朽化や多雨による雨漏り、夏場の冷房対策、さらに3階トイレの不足等、伝統的な建築物ならではの施設に関する課題が昨年度より顕著に出てきたが、トイレの改修、エアコンの設置が相次いで決まり、B評価ではあるが肯定的評価が増加した。今後は、資金的な裏打ちが必要な部分が多いが、生徒の安心安全を優先し事務部とも連携し可能な限り環境整備には努めていきたい。

・ 肯定的評価の割合が昨年度と比べて 10 % 程度以上の増減のあった項目

（増加）

④生徒指導 「頭髪・服装の乱れを正し、基本的生活習慣の確立を図っている。」

平成 29 年度 A 8 8 % → 平成 30 年度 A 9 7 % （9 % 増）

女子の化粧やアイプチなどまだまだ難しい部分はあるが、生徒指導部を中心にきめ細やかに根気よく指導していることが評価されているといえる。

⑪その他 「長期・短期留学制度の充実を図り、国際理解教育を推進している。」

平成 29 年度 A 8 8 % → 平成 30 年度 A 9 7 % （9 % 増）

昨年度は、短期留学が中止になったこともあり肯定的な回答の割合が低かったが、今年度は、短期・長期の留学が充実していたことや、長期の留学生を迎え入れたこともあり肯定的評価が多くなったと考えられる。

（減少）

④学習指導 「学習の基礎基本の確実な定着のために、個に応じたきめ細やかな指導を行っている。」

平成 29 年度 A 9 5 % → 平成 30 年度 A 8 6 % （9 % 減）

授業改革に向けて、「学びの変革セミナー」「公開授業週間」「G-O J T 活動」などを行っているが、多様化する生徒に対して教職員側の思いと生徒の思いにが、うまくかみ合っていないと感じている教職員が一定数いると思われる。今後は、さらに一歩進んだ授業改善を推進していくべきである。

(2) 生徒アンケートに見られる特徴

生徒アンケートにおいては、昨年度に比べ全体的に肯定的評価の比率が低い傾向に推移している。以前の生徒と比較し、よりきめ細やかな指導を求める傾向があると考えられる。生徒の自主性を尊重しつつ、適切な指導を施していく必要があるのではないかと。

B評価は23項目中9項目であった。

・ B評価で、なおかつ昨年度より肯定的評価が減った項目 … 2項目

①学校経営「学校経営方針のもと、全職員が共同体制を取って学校経営を行っている。(質問項目：学校全体の目標をわかりやすく教えてもらっている)」

平成29年度 A76% → 平成30年度 B69% (7%減)

⑩事務管理「施設・設備面での安全管理を充分に行っている。(質問項目：学校の施設設備は安全である)」

平成29年度 B68% → 平成30年度 B61% (7%減)

・ B評価の項目

④進路指導「進路情報を提供し、適切なアドバイスを行っている。(質問項目：進路にかかわる資料が整っており、進路についての適切なアドバイスを受けている)」

平成29年度 A79% → 平成30年度 B78% (1%減)

⑥図書館「図書に親しみ、読書の習慣をつけさせるための工夫を凝らした指導をしている。路情報を提供し、適切なアドバイスを行っている。(質問項目：図書館は生徒が図書に親しみ、読書の習慣が身につくようにはたらきかけている。)」

平成29年度 A78% → 平成30年度 B77% (1%減)

⑦保健安全「課題を抱える生徒の早期発見に努め、生徒が相談できる体制づくりや研修を行っている。(質問項目：担任の先生をはじめ、学校の先生に気軽に相談することができる)」

平成29年度 B69% → 平成30年度 B73% (4%増)

⑧人権教育「人権教育を推進するために、1年を通じて指導の計画を立て、人権意識の高揚を図っている(質問項目：LHRなどで人権問題について深く考える機会がある)」

平成29年度 A77% → 平成30年度 B75% (2%減)

⑨環境教育「ごみの分別・計量、節電等省エネに努め、環境問題への意識の向上に努めている。(質問項目：節電やごみの分別をこころがけている。)」

平成29年度 A81% → 平成30年度 B78% (3%減)

⑪その他「SPH事業の取り組みを通して、大学との連携を推進し商業高校としての専門教育の充実・発展と進路意識の向上を図っている。(質問項目：大学との連携などで専門的な教育や助言などを受け、進路意識の向上に役立っている。)」

平成29年度 A76% → 平成30年度 B73% (3%減)

⑩その他「長期・短期留学制度の充実を図り、国際理解教育を推進している。(質問項目：国際交流が盛んにおこなわれ、異文化理解に役立っている)」

平成29年度 A76% → 平成30年度 B76% (増減なし)

・ B評価ではあるが、肯定的評価が増えた項目

⑪その他「課題研究を通して自ら考え、発信できる人材・企業家養成を行っている(質問項目：課題研究を通じて、さまざまな人たちとの交流ができています。(3年生のみ))」

平成29年度 A77% → 平成30年度 A83% (6%増)

(3) 保護者アンケートに見られる特徴

保護者アンケートにおいては、おおむね昨年度とよく似た評価となった。しかし、学習指導や進路指導に関わる項目での評価が厳しく、昨年度に続いてB評価であり今後重点的に改善すべき点である。

B評価は23項目中7項目であった。

・ B評価 …

②学習指導「授業時数を確保し、わかる授業・深く考えさせる授業に向けて授業改善や計画的な授業の展開を行っている。(質問項目：子どもは、検定への挑戦など授業が工夫されていてわかりやすいといっている)」

平成29年度 B72% → 平成30年度 B70% (2%減)

- ④進路指導「進路情報を提供し、適切なアドバイスを行っている。(質問項目：学校は進路情報を提供し、家庭との意思疎通を積極的に行っている)」
平成29年度 B70% → 平成30年度 B69% (1%減)
- ⑥図書館「図書に親しみ、読書の習慣をつけさせるための工夫を凝らした指導をしている。進路情報を提供し、適切なアドバイスを行っている。(質問項目：図書館は、読書習慣を身につけさせるよう工夫を凝らした指導をしている)」
平成29年度 A78% → 平成30年度 B73% (5%減)
- ⑦保健指導「課題を抱える生徒の早期発見に努め、生徒が相談できる体制づくりや研修を行っている。(質問項目：先生は、子どもの悩み等について気軽に相談に応じてくれる)」
平成29年度 A78% → 平成30年度 B78% (増減なし)
- ⑨環境教育「ごみの分別・計量、節電等省エネに努め、環境問題への意識の向上に努めている。(質問項目：子どもは、節電やゴミの減量をこころがけ、環境に配慮している。)」
平成29年度 A77% → 平成30年度 B71% (6%減)
- ⑨その他「施設・設備面での安全管理を充分に行っている。(質問項目：学校は、施設・設備面での安全管理を充分に行っている。)」
平成29年度 A76% → 平成30年度 B74% (2%減)
- ⑥その他「SPH事業の取り組みを通して、大学との連携を推進し商業高校としての専門教育の充実・発展と進路意識の向上を図っている。(質問項目：学校では、大学との交流が盛んに行われている)」
平成29年度 A76% → 平成30年度 B69% (7%減)

◇学校にとって最も重点を置くべき「学習指導」と「進路指導」が昨年に引き続いてB評価であることは大きな問題である。よりよい「学習指導」「進路指導」の実現に向けて、多様化する生徒の現状をよく踏まえ教職員の個々の力量だけでなく全体で協議して進めていく必要がある。

◇保護者の学校評価アンケートにおいて、全体的に肯定的評価の割合が比較的低い数値となった原因の一つとして、次のようなことも考えられる。

- ・「図書館の活動」や「大学との交流」等の活動を近年積極的に実施されているが、学校で様々な取組を行っても、保護者に伝わっていないことや正しく伝えられていないことが多い。
- ・上記の課題の解決策として、今年度は、学校ホームページをこれまでこまめに更新してもらうよう取り組んだ。(部活動のページは、すべての部が最新の情報に更新を行った)今後さらに保護者向けの情報を発信する機会を増加させることが必要であると考えられる。また、生徒個人に関わる内容については、担任をはじめとする関係教員から保護者への連絡を今まで以上に密にし、学校の様子をより細かく保護者に伝えていくことや、生徒や保護者の抱える学習・進路・精神面等での相談を受けやすくする工夫が必要である。

(4) 学年別(生徒・保護者)のアンケート結果の比較から見られる課題(右表参照)

第1学年

1年生では他の学年に比べB評価が多い。(保護者8項目、生徒11項目)

生徒の状況や考え方、または求めるものが年々多様化し、今後対応を考えていく必要がある。また、保護者の思いにおいては、中学校時の指導に比べ高校では、保護者と学校との距離が遠く様々な情報が生徒の段階で止まってしまう保護者まで届かないことが多いのではないかとと思われる。今後とも必要な情報が、保護者に届くよう学年団を中心に連絡をより密にしていく必要がある。特に、進路情報に関しては1年時より意識持たれている保護者も多く、進路ガイダンスの取組などを保護者にも何らかの方法で伝えるとともに、必要な情報をオープンにしていく体制が必要であるといえる。

第2学年

2年生を見ると生徒にB評価が10項目あがっている。高校生活も2年が経過し学校生活の中心になる時期に当たり、学習や進路に関して意識高く問題意識を持っているのではないかと考えられる。いよいよ進路決定を控え、進路や自分の在り方を考える時期に学年団を中心に生徒に対し親身に寄り添い、適切な助言と情報を与えることを心掛ける必要がある。

第3学年

3年生を見ると生徒・保護者ともにB評価は、他の学年に比べ比較的少ない。進路決定の学年になり、進路決定に向けて担任等と懇談をするなど学校と接する機会も多くなり学校の状況を知ってもらえる機会が増えたためと考える。

重点評価項目	生徒						保護者					
	1年		2年		3年		1年		2年		3年	
学校経営方針のもと、全職員が協働体制をとって学校経営を行っている。	68%	B	72%	B	67%	B	83%	A	83%	A	89%	A
地域や生徒・保護者の願いを踏まえ、特色ある教育活動を積極的に推進している。	94%	A	96%	A	97%	A	91%	A	89%	A	93%	A
学習の基礎基本の確実な定着のために、個に応じたきめ細かな指導を行っている。	77%	B	82%	A	81%	A	81%	A	81%	A	86%	A
授業時数を確保し、わかる授業・深く考えさせる授業に向けて授業改善や計画的な授業の展開を行っている。	82%	A	79%	B	81%	A	66%	B	66%	B	76%	B
礼儀正しい言葉遣いと挨拶を身につけさせている。	95%	A	94%	A	97%	A	96%	A	94%	A	98%	A
頭髮・服装の乱れを正し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	97%	A	96%	A	98%	A	95%	A	95%	A	98%	A
いじめの未然防止と早期発見に努め、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。	95%	A	91%	A	97%	A	86%	A	85%	A	93%	A
生徒の進路に応じて、より高度な学力を身につけさせるとともに、資格を取得させている。	83%	A	75%	B	83%	A	92%	A	91%	A	91%	A
生徒の進路希望実現のために、1年次より系統的な進路指導・ガイダンスを行っている。	93%	A	86%	A	88%	A	86%	A	88%	A	89%	A
進路情報を提供し、適切なアドバイスを行っている。	76%	B	71%	B	88%	A	67%	B	65%	B	75%	B
部活動により、学校活性化を図っている。	79%	B	81%	A	93%	A	85%	A	88%	A	96%	A
生徒会活動により、生徒が自主的に計画や運営ができるよう指導をしている。	94%	A	91%	A	92%	A	95%	A	93%	A	95%	A
図書に親しみ、読書の習慣をつけさせるための工夫を凝らした指導をしている。	74%	B	77%	B	81%	A	68%	B	74%	B	78%	B
一人ひとりが健康で明るく豊かな生活が送れるよう指導・援助を行っている。	95%	A	92%	A	97%	A	91%	A	90%	A	95%	A
課題を抱える生徒の早期発見に努め、生徒が相談できる体制づくりや研修を行っている。	71%	B	74%	B	75%	B	75%	B	74%	B	84%	A
全ての教育活動において人権尊重の視点に立った教育を推進している。	94%	A	93%	A	95%	A	93%	A	89%	A	96%	A
人権教育を推進するために、1年を通じて指導の計画を立て、人権意識の高揚を図っている。	71%	B	71%	B	83%	A	87%	A	84%	A	97%	A
毎日の清掃を徹底させ、学校環境を清潔に維持している。	82%	A	85%	A	88%	A	85%	A	88%	A	89%	A
ごみの分別・計量、節電等省エネに努め、環境問題への意識の向上に努めている。	75%	B	82%	A	78%	B	64%	B	70%	B	80%	A
施設・設備面での安全管理を充分に行っている。	65%	B	64%	B	53%	C	72%	B	75%	B	75%	B
SPH事業の取り組みを通して、大学との連携を推進し商業高校としての専門教育の充実・発展と進路意識の向上を図っている。	71%	B	68%	B	79%	B	67%	B	69%	B	73%	B
長期・短期留学制度の充実等を図り、国際理解教育を推進している。	72%	B	79%	B	78%	B	77%	B	85%	A	87%	A
課題研究を通して自ら考え、発信できる人材・起業家養成を行っている。					83%	A	85%	A	84%	A	89%	A

(5) 3者のアンケート結果の比較から見られる課題

○3者ともB評価であり、特に課題があると思われる項目

⑨環境教育「ごみの分別・計量、節電等省エネに努め、環境問題への意識の向上に努めている。」

質問項目：(生 徒)「節電やごみの分類を心掛けている。」

(保護者)「子どもは、節電やゴミの減量をこころがけ、環境に配慮している。」

教職員 B (78%)、生徒 B (78%)、保護者 A (71%)

- ・環境問題に関しては、普段表立って伝えることが少なく肯定的評価が比較的少ないと考えられる。今後、環境問題に関しても機会を見て啓発を考えることが必要である。

⑩事務管理「施設・設備面で安全管理を充分に行っている」

質問項目：(生 徒)「学校の施設設備は安全である」

(保護者)「学校は、施設・設備面での安全管理を充分に行っている」

教職員 B (69%)、生徒 B (61%)、保護者 A (74%)

○3者のうちの2者がB評価であり、また、教員の自己評価との差も大きく課題があると思われる項目

④進路指導「進路情報を提供し、適切なアドバイスを行っている」

質問項目：(生 徒)「進路にかかわる資料が整っており、進路についての適切なアドバイスを受けている」

(保護者)「学校は進路情報を提供し、家庭との意思疎通を積極的に行っている」

教職員 A (90%)、生徒 B (78%)、保護者 B (69%)

- ・昨年度と比較しても、教職員と生徒・保護者の評価についてほとんど差はない。
- ・教職員は9割をこえる者が肯定的評価をしているが、生徒および保護者の肯定的評価にギャップがある。
- ・学校としては、資料を整え、3年生の保護者には進路説明会などを実施するなどして適切にアドバイスする機会を設けてはいるが、生徒や保護者の願いと乖離している可能性がある。
- ・1年時から進路に関する取組を行っているが、系統性やこれらの取組についての詳細な情報が保護者に伝わっていないことも一因として考えられる。
- ・保護者は、早い段階から進路の情報を必要としているので、1年時より保護者との連携も密にしていくことや、学校の取組を丁寧に保護者に伝える工夫が必要ではないかと考えられる。
- ・現1年生より教育課程が大幅に変更されており、3年後の自分の進路を見据えて科目選択等をさせる指導が必要である。

⑥学校図書館「図書に親しみ、読書の習慣をつけさせるための工夫を凝らした指導をしている」

質問項目；(生 徒)「図書館は生徒が図書に親しみ、読書の習慣が身につくようにはたらきかけている」

(保護者)「図書館は読書週間を身につけさせるよう工夫を凝らした指導をしている。」

教職員 A (98%)、生徒 B (77%)、保護者 B (73%)

- ・学校図書館の取組は、昨年度と同様の内容が継続されている。また、定期的に発行される「図書館だより」の配付だけでなく、「八商読書祭」「図書館でSHR」「図書館映画上映会」など多くの事業を行い熱心に活動してもらっているが、生徒・保護者へはまだまだ伝わり切れていないようである。今後も、これまでの図書館教育を継続していくとともに、学校図書館の活動の状況を保護者に伝えるためのさらなる取り組みを検討する必要がある。

⑦保健安全「課題を抱える生徒の早期発見に努め、生徒が相談できる体制づくりや研修を行っている」

質問項目：(生 徒)「担任の先生をはじめ、学校の先生に気軽に相談することができる」

(保護者)「先生は、子どもの悩み等について気軽に相談に応じてくれる」

教職員 A (91%)、生徒 B (73%)、保護者 B (78%)

- ・教職員の91%の職員が課題を抱える生徒の発見と対応ができていると評価しているが、生徒とは18%、保護者とは約13%の肯定的評価に開きがある。
- ・原因として、相談を受けた教職員が時間をかけてゆっくりと丁寧な個別対応ができていないことで生徒や保護者に不満が残っている場合や、生徒の言葉による訴えがなく課題その

ものに気付いていない場合もあると思われる。

- ・教職員は早期発見に努め相談体制や研修については整っていると評価しているが、生徒・保護者は不十分な面もあると感じている。気軽に相談できる雰囲気づくりも含め改善していく必要があるのではないかと考えられる。
- ・「学校をよりよくするためのアンケート」については、いじめ以外のものについても回答できるように工夫していただき、気になる回答については個別に面談を行うなどきめ細やかに対応している。
- ・教員の多忙や、事象の複雑化、相談する生徒のプライバシー等個人情報の保護等により情報共有の難しい面が増加している傾向がある。
- ・また、生徒がよく相談をする保健室（養護教諭）も、様々な課題を抱えた生徒の対応に追われ、生徒が相談を遠慮してしまう状況もある。
- ・生徒の多様化に伴って、今までにないような課題も出てきている。教員個人で抱えることなく、関係者で協議してチームとして対応することが必要である。

⑥その他「SPH事業の取り組みを通して、大学との連携を推進し商業高校としての専門教育の充実・発展と進路意識の向上を図っている。（質問項目：学校では、大学との交流が盛んに行われている）」

質問項目：（生徒）「大学との連携などで専門的な教育や助言を受け、進路意識の向上に役立っている。」

（保護者）「学校では、大学との交流が盛んにおこなわれている」

教職員 A（97%）、生徒 B（73%）、保護者 B（69%）

- ・SPH研究指定校になったことを機会とし、近年停滞していた滋賀大学経済学部との連携事業を積極的に行ったり、高崎商科大学と高齢連携協定を結び、HAUL-A (Highschool And University Link for Accounting) プログラムに参加することなど活発に連携していることは、職員には周知されているが、保護者への伝わり方はもう一步であることが分かる。また、生徒にとっても、高大連携が自分にとってどのように有益なのかを理解されていない部分もあり、高大連携の意義を伝えていく必要があると言える。

○教職員と生徒または保護者の肯定的評価の差が大きく、課題が含まれていると思われる項目（教職員と生徒、教職員と保護者の評価の差の合計が20ポイント以上のもの）

①学校経営「学校経営方針のもと、全職員が共同体制を取って学校経営を行っている。」

質問項目：（生徒）「学校全体の目標をわかりやすく教えてもらっている」

（保護者）「学校は、教育目標や重点的な取り組みをわかりやすく伝えている」

教職員 A（90%）、生徒 B（69%）、保護者 A（85%）

- ・教職員、保護者に対しては、学校の経営方針や学校の進むべき道が伝わっているようであるが、生徒には意識されにくい部分であるように思われる。今後は、機会を見て本校で学ぶ意義や育成すべき資質について伝える取り組みも必要となってくると考えられる。

⑧人権教育「人権教育を推進するために、1年を通じて指導の計画を立て、人権意識の高揚を図っている」

質問項目：（生徒）「LHRなどで人権問題について深く考える機会がある」

（保護者）「子どもは、社会人としてふさわしい人権感覚を身につけている」

教職員 B（95%）、生徒 B（75%）、保護者 A（89%）

- ・人権教育では、様々な工夫をして取組を進めてもらっていることで、教職員や保護者には一定の理解があると言える。しかし、生徒の中には、ただ単に参加しているだけで深く考えることができていない生徒もいるようである。せっきくの取組をよりよいものにしていくために、更なる工夫が必要である。

⑩その他「長期・短期留学制度の充実を図り、国際理解教育を推進している。」

質問項目：（生徒）「国際交流が盛んにおこなわれ、異文化理解に役立っている」

（保護者）「学校では国際交流が盛んにおこなわれ、異文化理解に役立っている」

教職員 A（97%）、生徒 B（76%）、保護者 A（83%）